

連合北海道が酪農の若者雇用テーマにシンポ

連合北海道(工藤和男会長)は2月28日、札幌で第2回目の「酪農業(一次産業)を支える若者雇用応援シンポジウム」を開催した。酪農ヘルパーや新規就農者の研修・支援策を巡り、講演と意見交換を行った。道内の酪農家や農協関係者ら100人が参加した。



工藤会長は主催者挨拶で、労働組織の連合組織が酪農の雇用問題に乗り出したきっかけについて、「酪農ヘルパーから『休みが取りづらい』と労働相談の電話がかかってきた。酪農家からも『従業員がすぐに辞めてしまう』との問い合わせがあった。北海道は農林水産業が基幹的な産業。酪農にはこうした雇用問題や年間200戸程度の離農、労働基準法第41条(労働時間等に関する規定の適用除外)など、さまざまな課題がある。酪農を始め農林水産業が、働きがいがあり、魅力的で誇りと喜びを感じられ、成長し続けられるよう、皆さんと一緒に考えたい」と述べた。

八紘学園北海道農業専門学校の高林透教学部長が、学生を酪農ヘルパーとして送り出す立場から雇用問題について講演、「生産現場から『いい子をお願いします』と言われる。私たちは逆に『いい子が来てくれる環境づくり』を頼んでいる。酪農ヘルパーは初めての土地や朝早い仕事、たくさんの酪農家とのコミュニケーションなど極めてストレスの大きい職業。雇用確保には、仕事の厳しさと同時に安心感を与えることが重要だ。漫画『銀の匙 Silver Spoon』の大ヒットで、当校の資料を求める中高生のメルアドには『Silver Spoon』の文字が多く見られるようになった。酪農家を志す潜在的な需要は増しており、いかに仕事の厳しさと安心感を伝えられるかが問われている」と述べた。



酪農ヘルパーや農業研修生を積極的に受け入れ定住化に成果を上げている十勝管内鹿追町の喜井知己農業振興課長、新規就農者の拡大に取り組む農水省の北川愛二郎就農・女性課専門官が講演した。

※許可をいただき、(株)酪農乳業速報 酪農スピードNEWS より転載しました。

(写真は連合北海道撮影のものを記事内に配置しました)